

2020年6月7日（日）三位一体主日 銀座教会 主日家庭礼拝

礼拝招詞

「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に置く。

あなたがたはわが民となり、わたしはあなたがたの神となる」

エゼキエル書36章26a、28b

主の祈り

天にまします我らの父よ、願わくはみ名を崇めさせたまえ。

み国を来らせたまえ。みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を今日も与えたまえ。

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。

我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄とは限りなく汝のものなればなり。 アーメン

讃美歌 199 わが君イエスよ つみの身は

聖書 使徒言行録8章34～40節

34 宦官はフィリポに言った。「どうぞ教えてください。預言者は、だれについてこう言っているのでしょうか。自分についてですか。だれかほかの人についてですか。」35 そこで、フィリポは口を開き、聖書のこの箇所から説きおこして、イエスについて福音を告げ知らせた。36 道を進んで行くうちに、彼らは水のある所に来た。宦官は言った。「ここに水があります。洗礼を受けるのに、何か妨げがあるのでしょうか。」

（*37節）38 そして、車を止めさせた。フィリポと宦官は二人とも水の中に入って行き、フィリポは宦官に洗礼を授けた。39 彼らが水の中から上がると、主の霊がフィリポを連れ去った。宦官はもはやフィリポの姿を見なかったが、喜びにあふれて旅を続けた。40 フィリポはアゾトに姿を現した。そして、すべての町を巡りながら福音を告げ知らせ、カイサリアまで行った。

37（†底本に節が欠落 異本訳）フィリポが、「真心から信じておられるなら、差し支えありません」と言うと、宦官は、「イエス・キリストは神の子であると信じます」と答えた。

牧会祈祷

天の父なる神さま。神さまの憐れみにより、三位一体主日の朝、御前に立つことを赦されて感謝いたします。あなたの御赦しがなければ、御前に立つことの出来ない者です。にもかかわらず、十字架の主イエスの愛によって赦され愛されていることを感謝いたします。私たちを導いてくださる大牧者なる神さま、あなたの御体なる教会に連なる私たちを神の

国へ導いてください。私たちが不信仰になり、あなたに背を向ける時、御言葉によって悔い改めさせてください。先週は、聖霊降臨日礼拝をささげました。本日は、父なる神、子なるイエス・キリスト、聖霊なる神、三位一体の神の交わりに加えられる恵みに与ります。6月を迎え、本日より家庭礼拝と同時に教会に集まる礼拝を開始することといたしました。久しぶりに再会した喜びを覚えつつ、来ようとして集えない方々を覚えます。家庭礼拝の一人一人の上に聖霊なる神の憐れみと導きをお与えください。信仰の交わりに加えられている平安と喜びをお与えください。私たちの足腰に力をお与えください。隣人を覚えて声を掛け合い、家族を愛する心を豊かにしてください。聖霊なる神の御業の中で一つにしてくださいますように祈ります。世界が直面しているウィルスに対して、悔ることなく、冷静に、最善の道を歩ませてくださいますように願っています。

子どもたちの学校生活をお導きください。礼拝以外の集会へ道を求めています。御心をお示してくださいますように祈ります。全国の諸教会の伝道をお導きください。この時こそ、伝道者として献身する者をお立てくださいますようにお祈りいたします。

この祈り、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。 アーメン

聖歌隊奉唱 生きてあるは (チャールズ・ウェスレー讃美歌)

説教 「宦官の洗礼式」 使徒言行録8章34～40節

高橋 潤

本日より、家庭礼拝と同時に、礼拝堂に集まる礼拝をささげる二本立てという新しい試みをはじめました。まだまだ礼拝開始を諸手を挙げて喜ぶ日ではないことを私たちは知っています。新型コロナウイルスの感染がまだ収束・終息しているとはいええないからです。自分自身が感染者かどうか不安を拭えない日々を過ごしています。同時に以前からの一人一人の人生の課題を背負いつつ、どのように生きるか、新しい生き方が求められています。

緊張した生活を続けながら、今、神は私たちに何を与えようとしているのでしょうか。一つには集まる礼拝者と家庭礼拝をささげている人々が相互に祈り合い、お互いのために祈りながら、次の段階を模索することではないかと思えます。再び、集まる日が来る可能性があります。しかし、そのような事をくり返しながらも、いつの日か安心して、誰もがいつでも礼拝堂に集える日が来るように願っています。感染危機の中、私たちは、隣人愛に生きる訓練の機会を与えられています。現在、教会は、お互いを思いやり、隣人の痛みを受け止め、執り成しの祈りに生きるための訓練の時を神さまから与えられていると思えます。この隣人愛は、家族、教会、地域、国境を越えて広がる力です。

本日与えられた聖書の御言葉は、聖霊なる神の計画による異邦人第一号となる宦官の洗礼式です。はるばるエチオピアからエルサレム神殿まで片道約1500キロの旅をして礼拝をささげ、その後、エルサレムからエチオピアへ帰る途上、洗礼式が行われたことが記されています。この洗礼式は、聖霊なる神のくすしき導きによって、異邦人伝道の第一歩として記録されています。この洗礼式によって、初代教会の土台が築かれ、伝道の喜びが広く

エチオピアまで広がりました。聖霊なる神は、伝道者フィリポを遣わし、宦官の洗礼志願を公にし、洗礼式へと導きました。異邦人である私たちの洗礼はじまりの物語として覚えて良いと思います。私たちの受けた洗礼のルーツがここにあるとあって良いのです。

皆さんは、自分の洗礼式を思い起こすことがあるでしょう。又は、親しい友人や家族の洗礼式に駆けつけた経験を持っていることでしょう。私たちが教会で経験する喜びは数え切れないほどありますが、その中でも最も喜びに満たされる時が洗礼式です。この喜びは人間の喜びと神さまの喜びが一つになる時です。私たちが神さまに結び合わされる喜び、それが洗礼式です。

今年は、イースター礼拝とペンテコステ礼拝において洗礼志願者が受洗準備をしていました。教会全体で喜びを分かち合いたいと願い、話し合いつつ洗礼式を延期しています。近い将来、この方々の洗礼式が行われます。その時、使徒言行録 8 章の異邦人最初の洗礼式を思い起こして、一緒に喜びを分かち合いたいと思っています。

8 章の洗礼の記事には 37 節が抜けています。37 節は、新共同訳聖書の翻訳に用いられた有力な写本にはないからです。しかし翻訳に採用されなかった写本には記されていることと内容的なことから、本文と区別して巻末に記載されています。このように記されています。「**37 フィリポが、「真心から信じておられるなら、差し支えありません」と言うと、宦官は、「イエス・キリストは神の子であると信じます」と答えた。」**

この言葉は、初代教会における洗礼式の誓約の言葉だと考えられています。有力な写本になくとも、歴史的には、古代教会の洗礼式の誓約を確認出来る重要な資料です。古くから現在にいたるまで、変わらない信仰告白と誓約の言葉を読むことができるのです。

エチオピアの高官であるこの宦官は、ユダヤ教の聖典、イザヤ書を読みながら、フィリポの手引きによって、イエス・キリストは神の子であると信じる信仰を与えられました。宦官は、イザヤ書を読んで、どうしてイエス・キリストを神の子と信じる事が出来たのでしょうか。エチオピアへの帰路、水のある場所で洗礼を受けたいと願った宦官は、どのような恵みに与ったのでしょうか。宦官は「**ここに水があります。洗礼を受けるのに何か妨げがあるのでしょうか。**」と心からなる洗礼志願を表明し、「**イエス・キリストは神の子であると信じます**」と告白しました。そして、喜びにあふれて旅を続けました。

旧約聖書から福音、そして信仰告白へというキリスト教会にとってとても大切な信仰の筋道を与えられました。旧約聖書を通してキリストへ導かれる道が開通したといえましょう。教会にとって大切な伝道の道路が開通したのです。旧約を新約聖書の光で照らして読む道です。

宦官は、自分自身が「羊のように屠り場に引かれて行った。毛を刈る者の前で黙している小羊のように口を開かない。卑しめられて、その裁きも行われなかった。だれが、その子孫について語れるだろう。彼の命は地上から取り去られるからだ。」イザヤ書 53 章 7、8 節の言葉です。この言葉を朗読していて、宦官は、イザヤ書の中に自分自身を発見したのです。そして、この言葉の背景には、どなたがおられるのだろうか、疑問が湧いてき

ました。そこにフィリポは遣わされ、イザヤ書 53 章から説き起こし、53 章 1-6、更には 56 章の異邦人の救いへと読み解いて、宦官に福音を説明したと思います。特に 56 章の 3～5 節は宦官にとって忘れられない大切な言葉です。

「主のもとに集って来た異邦人は言うな 主は御自分の民とわたしを区別される、と。

宦官も、言うな 見よ、わたしは枯れ木にすぎない、と。4 なぜなら、主はこう言われる 宦官が、わたしの安息日を常に守り わたしの望むことを選び わたしの契約を固く守るなら 5 わたしは彼らのために、とこしえの名を与え 息子、娘を持つにまさる記念の名を わたしの家、わたしの城壁に刻む。その名は決して消し去られることがない。」

フィリポは、イザヤが語る苦難の僕を通してキリストの苦難を伝え、宦官の人生の主はイエス・キリストであることを伝えたのです。イエス・キリストこそ、私たちの苦難を理解し、受け止められたお方であると喜びの知らせ、福音を伝えました。宦官は、このお方と共に生きたい、このお方のもとで死を乗り越えたいと洗礼志願が与えられました。

実は、フィリポが遣わされる前に、この宦官の心を誰よりも深く知っていたお方がいます。それは、聖霊なる神です。聖霊は、伝道者フィリポを宦官のところに遣わし、宦官に同伴するように命じられました。聖霊なる神は、宦官の心を知っていたからこそ、ガザへ下る道、寂しい道へ派遣したのです。宦官は、エチオピアから数ヶ月もの道を旅してまでも、救いの確かさを求めていることを知っていたのです。私たちが心から、本気で救いの確かさを求めるとき、聖霊なる神は受け止めていて下さるのです。求めよさらば与えられん、と主イエスがお語りになった通り、私たちの志を受け止めて下さるのが聖霊なる神さまで。聖霊は、私たちを死に迫いやる風ではなく、命と喜びへ導く風です。

聖書は、異邦人伝道最初の洗礼志願者、エチオピアの高官である宦官の名前は記していません。しかし、名前以上のことを記しています。それは、エチオピアの女王の全財産を管理していた宦官であったということです。この言葉から宦官の姿が浮かび上がってまいります。彼は、自らの子孫を残せなくても生涯女王に仕える決断をしたのです。そのために自らの体を去勢し、女王のそば近くで仕える決断をして、女王に命をささげました。命をかけて女王に仕えた宦官は、女王が最も信頼する側近になりました。女王の全財産を管理するほどの信用と信頼を得る地位が与えられました。しかし、女王の信用と信頼が揺るぎないものになっても、宦官自身の苦悩は消えることなく、深まるばかりだったのではないのでしょうか。決して誰にも語る事の出来ない弱さ惨めさをもっていたのではないのでしょうか。神を求め救いの確かさを求めているのではないかと思います。真の救いと平安を求めたのです。

この宦官にこそ福音が必要です。私たちは宦官ではなくても、この宦官の心を共有しているのではないのでしょうか。家族のために献身的に働きます。会社のためにすべてを犠牲に生きてきました。そのような中で、この自分のうめきを理解してくれる方を求めます。このような自分が救われるのかどうか案じる時があります。誰もが、自分自身を理解してくれる方、自分を愛し、受け入れてくれる方を必要としています。

宦官は、エルサレム神殿において、宦官に関する旧約の律法として、申命記 23 章 2 節「**辜丸のつぶれた者、陰茎を切断されている者は主の会衆に加わることはできない。**」を聴い

ていたでしょう。この言葉によって宦官は主の会衆に加われないこととなります。すなわち、ユダヤ教の律法によっては、宦官は救いから排除されてしまいます。しかし、主イエス・キリストの福音の光によって聖書を読む時、苦難の僕、イエス・キリスト、宦官が愛の絆で結ばれるのです。主イエスの恵みによって、私のために苦しみ、愛してくれるお方は、この地上に今なお、復活の主として生きているという希望を与えられるのです。

この希望は聖霊が宦官に与えた新しい救いの光です。これが喜びの福音です。宦官がエチオピアに帰っても、今一度女王のそばで仕えようとも、消えることのない福音の喜びが宦官を満たし続けるのです。宦官の喜びは、その後のエチオピア伝道へと広がっていったと思われまふ。2世紀ころアフリカ大陸において最初のキリスト教国になったのがエチオピアでした。宦官の喜びがさらに多くの人々へ伝えられたと思います。フィリポと離れた後、宦官は「喜びにあふれて旅を続けた」とあります。宦官の喜びの旅を今や私たちが受け継ぐのです。

私たちも、イエス・キリストによって、私たちのどんな苦しみも悲しみも弱さも惨めさも受け入れられている福音を受け入れましょう。この福音によって、喜びを与えられて生きまふ。苦難の僕、主イエス、宦官、そして私たちが繋がっているのです。洗礼の恵みを感謝して、三位一体主日からはじまる一週間を歩みまふ。

祈り

天の父なる神さま。聖霊なる神が宦官のもとにフィリポを遣わし福音を聴き、洗礼へと導かれました。私たちもまた、あなたの喜びに迎えられていることを思い、感謝いたします。父、子、聖霊なる三位一体の神さまの交わりに迎えられている喜びを覚えて、あなたの喜びを宦官の喜びを共に喜ぶものとして下さい。キリストの御名によって祈ります。

アーメン

祈 禱（各自、自由にお祈りください）

祈禱課題 家庭礼拝と教会での礼拝の両立によって心一つに出来るように
病の中で苦しむ方々、医療従事者のために
世界の教会が聖霊の助けと働きを通して恵みを数えるように
自肅によって弱った心と体が癒やされますように

讃美歌 499 御霊よ、降りて むかしの如く

頌 栄 544

祝 禱

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。

アーメン